

## 2018年度夏季手当を申し入れる

# 基準内賃金×2.7カ月

### 回答指定日 6月15日 支払指定日 7月6日

#### 2018年度 夏季手当第1回交渉報告

中央本部は、本日14時30分より申第13号「2018年度夏季手当の申し入れ」に基づく団体交渉を行い、申し入れにあたり以下の項目を訴えました。

- ①平成29年度決算において、2年連続で鉄道事業部門の黒字を達成するとともに、単体・連結決算でも過去最高益を計上した。この結果は組合員が血の滲む努力を行ってきた結果である。
- ②職場では常態化する欠員が解消されない中で輸送障害対応を行なっているが、一方で安全確立や安定輸送に関わる課題については未だ解決しておらず、若年退職も未だに止まらない。JR貨物が選択されない企業となっている根拠となっている。
- ③今年度の事業計画の達成に向けて組合員のモチベーションの更なる向上は必要不可欠である。職場では夏季手当に対する期待は非常に大きい。経営陣は要求に対して満額回答で応え組合員の目に見える形で誠意を示すこと。

これに対して会社は次のように回答しました。

- ①2年連続で鉄道事業部門の黒字を達成することができた。改めて貴組合のこれまでの協力に対して感謝を申し上げる。今年度に入っても現時点で、収入計画に対して+2億円で推移している。
- ②期末手当に対して社員が大きな期待を持っていることは理解しているが、JR貨物の経営基盤は未だ脆弱であり、決して楽観視できない。今年度の事業計画において6.6億円の努力目標が残っている。鉄道事業部門は貸付賃料で黒字ではあるが、鉄道そのものは未だ100億円の赤字である。
- ③そのような厳しい状況でも社員に対して福利厚生や一時金の支給などの還元を行ってきた。申し入れの内容は真摯に受け止め、今後議論を進めたい。

会社の回答に対し中央本部は以下の点について指摘しました。

- ①経営基盤の強化は極めて経営問題である。期末手当は極めて生活給であり、そのことを理由に手当を抑制することは認めない。我々の努力の結果は明確に数字で表れており、その努力に対して経営陣として応えること。
- ②中堅社員の退職が止まっていない。新規採用も重要だが、会社の体力は職場の体力=技術力であり今重要なのは技術を持った中堅・ベテラン社員をいかに大事にするかである。ベースアップ実施で明るくなった職場の良い流れを止めない判断をすること。
- ③決して盤石とはいえない経営基盤の中で人事制度の見直しを計画している。見直しの目的である努力した社員に報いるというのであれば、期末手当で会社としての姿勢を見せること。

組合員のみなさん！本日より夏季手当交渉がスタートしました。中央本部は、組合員の切実な要求の実現に向けて職場闘争と結合し、要求実現に向けて不退転の決意で臨むことを明らかにして第1回交渉報告とします。

以上

次回、第2回交渉は5月22日（火曜日）です。